

SUPER GT 第4戦富士、日産勢は想定外の苦戦

— SUPER GT 2026 第4戦レースレポート —

8月2日 富士スピードウェイ(静岡県)



2026年SUPER GTシリーズ第4戦が富士スピードウェイで開催されました。第3戦のセパン大会が延期され、5月の第2戦から3カ月のインターバルをおいて行われた真夏の第4戦に、日産/NISMO陣営は3台のNissan Z NISMO GT500で挑みました。レース直前の雨と、コンディションの急回復など不安定な状況でスタートしたレースは、Nissan Z NISMO GT500勢にとって厳しい結果となりました。

開幕戦と第2戦の結果により、#12 TRS IMPUL with SDG Z(平峰 一貴 / ベルトラン・バゲット)に30kg、#23 MOTUL Niterra Z(千代 勝正 / 高星 明誠)に28kg、#24 リアライズコーポレーション Z(名取 鉄平 / 三宅 淳詞)に14kgのサクセスウェイトが課されています。

【GT500】

#23 MOTUL Niterra Z が予選 8 位

#12 TRS IMPUL with SDG Z が予選 9 位

予選

予選日の8月1日(土)、曇りながら強い日差しも差し込む天候のもと、午後2時53分からQ1が開始されました。気温33度、路面温度48度の真夏のコンディションです。Z勢は各車タイヤのウォームアップを行い、5～6周目にアタックを実施。#23 Zの高星は6番手で、#12 Zのバゲットは9番手でQ1突破を果たしました。#24 Zの名取は6周目にベストラップをマークしますが、14番手で10分間のセッションを終了し、Q2進出は果たせませんでした。

午後3時31分からGT500クラスのQ2がスタートしました。2台のZは5周目にベストラップをマークし、#23 Zの千代はQ1のタイムを上まわる1分27秒951、#12 Zの平峰もQ1のタイムを更新し1分27秒986で予選Q2を終えました。好タイムをマークした2台ですが、上位陣にはわずかに及ばず、#23 Zは8位、#12 Zは9位で予選を終えています。

#23 MOTUL Niterra Z がアクシデントでリタイア

日産勢にとって厳しいレースに

決勝

8月2日(日)決勝日、蒸し暑い曇り空のもと、全車がグリッドに着くとサーキットは激しい降雨に見舞われました。午後1時30分のフォーメーションラップ開始直前に雨は上がり、日差しが出始めたことから、各車は一旦交換したウェ

ットタイヤから、再びドライタイヤに戻す作業に追われる慌ただしい状態になります。結局、GT500 クラスは全車がドライタイヤでスタートに臨むことになりました。路面はまだセミウェット状態であることから、レースはセーフティカー(SC)スタートとなります。気温 34 度、路面温度 47 度、路面はところどころ濡れた状態で、SC 先導によるレースがスタートしました。

4 周にわたる SC 先導走行の後、5 周目からレースが開始されました。その直後、メインストレートで#12 Z のバゲットが#23 Z の高星に接触、コントロールを失った#23 Z が他車に接触する多重クラッシュが発生し、レースは赤旗中断となりました。#23 Z はこの接触によって左フロント部と右リヤ部にダメージを負い、ピットガレージで修復作業が行われました。

午後 2 時 15 分、SC 先導でレースが再開されました。中断中に路面は乾き、コースは完全ドライのコンディションとなっています。4 周の SC 先導走行の後、10 周目からリスタートが切られます。再開後まもなく、7 番手を走行する#12 Z に対して SC 導入中の他車への衝突行為として 90 秒のピットストップと SC リスタート時の追い越しに対してドライブスルーペナルティが科され、そのふたつのペナルティを消化した#12 Z は周回遅れの 12 番手に後退しました。

12 番手を走行していた#24 Z の三宅は、リスタート後にペースを上げ、10 周目に 11 番手に上がり、12 周目には#12 Z のピットインによって 10 番手となります。21 周を終え、GT500 クラスはピットインするマシンが出始めました。比較的ピットインのタイミングを延ばした#24 Z は、4 番手までポジションを上げた 29 周終了時点でピットインを行い、ドライバーを名取に交代しました。#24 Z は 10 番手でレースに戻っています。

レース折り返し直前の 30 周目、メカニックによる懸命な修復を続けていた#23 Z が作業を完了させ、コースに復帰。11 周を走行しましたが、振動が出たため再びピットに戻り、リタイヤを選択しました。レース終盤の 50 周目、ペースに苦む#24 Z の名取は 11 番手にダウン。その後もペースは回復せずポジションを挽回することはできませんでした。

1 周遅れの 12 番手で走行を続けた#12 Z は、39 周を終えてピットインしドライバーを平峰に交代しました。ポジションを上げるには至りませんでした。レース後半、平峰はハイペースで周回を重ね、マシンの競争力の高さを確認することができました。

第 4 戦は Nissan Z NISMO GT500 勢にとって想定外の厳しいレースとなりました。日産/NISMO 陣営は今回の課題の分析と対処を進め、これまで実績のある次戦の鈴鹿で好結果を得られるよう全力を尽くします。

【GT300】

GT300 クラスには 4 台の Nissan GT-R NISMO GT3 と、2 台の GTA GT300 規則のフェアレディ Z が参戦。予選 10 番手からスタートした#56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織)が 5 位に入賞しました。また、#62 HELM MOTORSPORTS GT-R(平木 湧也 / 平木 玲次)も力走を見せて大きくポジションを上げて 8 位に入り、2 戦連続でポイントを獲得しました。

【GT500決勝 結果】 66Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴 / 牧野 任祐	2:23' 36.345
2	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田 格之進 / 大津 弘樹	0.662
3	37	Deloitte TOM'S GR Supra	笹原 右京 / ジュリアーノ・アレジ	1.478
11	24	リアライズコーポレーション Z	名取 鉄平 / 三宅 淳嗣	42.112
12	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴 / ベルトラン・バゲット	1Lap
R	23	MOTUL Niterra Z	千代 勝正 / 高星 明誠	50Laps

【GT300決勝 結果】 62Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	52	Green Brave GR Supra GT	吉田 広樹 / 野中 誠太	2:24' 28.036
2	32	ENEOS X PRIME AMG GT3	石浦 宏明 / 鈴木 斗輝哉	7.881
3	7	CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO	ザック・オサリバン / 梅垣 清	9.156
5	56	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織	17.268
8	62	HELM MOTORSPORTS GT-R	平木 湧也 / 平木 玲次	27.986
18	360	RUNUP x SOL GT-R	荒川 麟 / 清水 啓伸	1Lap
19	11	GAINER TANAX Z	富田 竜一郎 / 大木 一輝	1Lap
24	48	健康ケーズフロンティア WM ニルズ GT-R	井田 太陽 / ジェームス・ブル	1Lap
29	26	ANEST IWATA GAINER Z	安田 裕信 / リ・ジョンウ	10Laps

以上